

No. 41
2022.4.1

テミス(法学部報) *Themis*



CONTENTS

贈る言葉

特集「あの人に会いたい」

永きにわたり

私は法学部生

はじめまして

教員紹介



早稲田大学 法学部

たゆ 撓まず屈せず勉強するがよい

法学部長 箱井 崇史



■卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。そして、新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。法学部の教職員を代表いたしまして、ご卒業とご入学のお祝いを申し上げます。新入生のみなさん、早稲田大学法学部へようこそ！

2020年の春先から私たちの生活を一変させた新型コロナウイルス感染症の脅威は、2年を経過した現在もなお続いています。今年の新入生は、受験勉強はもちろん、学校行事など高校生活のかなりの部分で制約を受け、辛い日々を過ごしてきたことと思います。そうした中で、みなさんの努力が報われ早稲田大学法学部への入学を果たされましたことは、まことに喜ばしく、心からお祝いを申し上げます。

■コロナ禍については、この2年間でワクチン接種が進み、重症化を回避する治療薬の使用が始まるなど状況は少しずつ改善していますが、まだこの先どうなるかを正確に見通すことはできません。新入生のみなさんの大学生活への影響も、しばらくは避けられないことでしょう。

さて、昨年のNHK大河ドラマは渋沢栄一が主人公でしたので、この機会に『論語と算盤』を手にした人もいるのではないのでしょうか。この本の中で、渋沢は、人生において遭遇する「逆境」について、まずそれが「人為的な逆境」であるか、それとも「自然的な逆境」であるかを区別した後に、その逆境への対処方法を考えるべきであると語っています。もし「自然的な逆境」をすべて人為的なもののよう理解して、人間の力でどうにかなるものと考えてしまうと、ただ苦勞の種を増すばかりか勞して功のない結果となり、ついには逆境に疲れさせられて、後日の策を講じることもできなくなってしまうと述べています。そして、「自然的な逆境」への対処方法として、次のように説いています。

「まず天命に安んじ、おもむろに来るべき運命を待ちつつ、撓（たゆ）まず屈せず勉強するがよい。」（渋沢栄一『論語と算盤』角川ソフィア文庫44頁。底本は昭和2年刊行の同名書）

■コロナ禍は、まさに「自然的な逆境」でありましょう。すなわち、渋沢の教えに倣えば、今はコロナ禍という逆境を天命として受け容れ、焦らずゆったりと構えながら、来たるべき将来に向けて今できることに励むべしということではないかと思います（「勉強」というのは、もちろん学校の勉強ばかりではありません）。今なにができるか、なにをすべきか、自分に合った現在の時間の使い方を、みなさんもちょっと考えてみてはいかがでしょうか。もしかしたら、「こうした時だからこそ、できた」というものが見つかる

かもしれません。なにも、焦る必要はないのです。

■この『論語と算盤』の冒頭に当たる「論語と算盤は甚だ遠くして甚だ近いもの」の部分では、この本のタイトルについて述べられていますので、その部分を引用してご紹介しましょう。

「ただ空理に趨（はし）り虚栄に赴く国民は、決して真理の発達をなすものではない。ゆえに自分等はなるべく政治界、軍事界などがただ跋扈せずに、実業界がなるべく力を張るように希望する。これはすなわち物を増殖する務めである。これが完全でなければ国の富はなさぬ。その富をなす根源は何かといえば、仁義道德。正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続することができぬ。ここにおいて論語と算盤という懸け離れたものを一致せしめることが、今日の緊要の務めと自分は考えているのである。」（前掲書22頁）。

資本主義の弊害を見抜き、それを防ごうとする試みを体現するものといわれている本書の思想は、現代においても通用するものとして評価されています。革新的なもの、便利なものには、往々にして弊害はつきものです。新しいものの、未知のものであれば、この弊害も容易に知ることができないかもしれません。私たち、法を学ぶ者は、まっしぐらに先頭を進む華々しい人々から一歩下がって、冷静な頭で、その先の状況を考える役割を担っているといえるように思います。

■これは、急速に進む先端科学技術の開発とその社会実装にもあてはまるのではないのでしょうか。電車内のマスクがコロナ禍の象徴とすれば、同じく電車内のスマホはIT技術の象徴といえるでしょう。いうまでもなく、IT技術の急速な進歩は私たちの日々の生活の景色や社会そのものを変化させつつあります。そして、人や社会を広く対象とする法律学の役割は、ここでもますます重要なものとなるはずで、早稲田大学法学部は、今年、2022年度より「先端科学技術と法」の新コースをスタートしますが、その根底にはこうした認識があります。夢を実現する素晴らしい技術でも、ひとたび使い方を間違えれば、取り返しのつかない悲劇の種となりかねません。法学部では、いわば「論語と電子計算機」の思想（？）で、学生のみなさんと一緒に、新たな時代の法律学の役割について考えていきたいと思っています。ともかく、コロナ禍が終息するまで、撓まず屈せず勉強してまいりましょう。

あの人に会いたい

人生のターニングポイント

菊池 馨実

これまでの人生において、私は多くの方に助けられてきました。その中には、既に亡くなられた方も少なくありません。

地元札幌の北海道大学法学部を卒業し、私は富士銀行という会社に就職しました。みずほ銀行の前身のひとつです。札幌支店での採用活動で、学生の面接にあたっておられたのが、当時副支店長であった山口俊明さんでした。頭が切れるだけでなく、関西出身のユーモアセンスに加え、一度お話するだけでファンになってしまうような人間的魅力をもっておられました。いくつかの企業に内々定をいただいた中で、富士銀行に決めたのは、山口さんの魅力に惹かれた部分も正直言っていました。

私はもともと厚生省（今の厚生労働省）志望で、国家公務員試験の勉強をしていました。力及ばず二次試験で落ち、企業就職に方向転換したのでした。こうした経緯もあり、もう一度チャレンジし直したいという思いが、入行2年目になって頭をもたげてきました。

私が新人として札幌支店に配属後ほどなく、山口さんは転勤になり、その後、高卒では例をみない本店長というポジションにまで登り詰めました。「会社を辞めよう」そう思った私は、休日に東京

まで山口さんに会いに行きました。その時、山口さんは、「厚生省を受け直すなら止めたほうがいい。大組織という点では、銀行も役所も同じ。2年ごとに転勤があって、自分のやりたい仕事をずっとできるわけじゃない。その点、大学院に進学して研究者を目指すなら反対はしない。菊池君にはそれも向いているかもしれない。」と言ってくださったのです。まったく同じことを、その直前、学部ゼミの恩師であり、研究者としての師匠でもある道幸哲也先生（労働法）からも言われていました。「その点、学者は自分がやりたいことを一生続けられるんだぞ」と。

山口さんには、退職後も一度だけ東京でお会いしました。その後は主に年賀状のやりとりでしたが、ある年、山口さんが亡くなられたこと、私のことをよく話題にされていたことなどが書かれたお手紙を、奥様から頂戴しました。まだ大学院生だった私が、一人前の研究者になるのを見ていただけなかったのが、残念です。

人にはさまざまな出会いがあり、別れがあります。ひょんなことで出会った人が、人生にとって大きな意味をもつ「師」になることもあります。そのためにも、一つひとつの出会いと別れを大切にしたいものです。

不要不急の外出を避け、他人と向き合って話す機会が少なくなってしまった毎日に、誰かのことをふと考えたことはありませんか？ 卒業と入学の時期を迎えて、恩師や先輩、あるいは、会えなかった人やこれから出会う人への思いを寄せる皆さんに、4人の先生からのエッセイをお届けします。

会いたくても会えなくなった人

ニールス・グウルベルク

齢を重ねるにつれて、会いたくても会えなくなった人が年々増える一方です。

学問上、過去すばらしい先生方と出会いましたが、その中でも私の学問を大きく展開させてくださったことになった三人の先生を恩師として尊敬してきました。そのお三方の中で、最後に出会った方が、残念ながら七年前に帰らぬ人となりました。

この三人めの恩師に日本留学時に教わった研究課題を探究する為に、先生の研究会に所属し、豊富な研究資料があるお勤めの大学で研究員にして戴いた時期もあったお礼の意味もあって、職に就いてからも、週一回先生のゼミに顔を出すことにしていました。この状態は定年退職まで七年間続きました。その最後の五、六年間、先生は大仕事をなさろうとされていました。伝本系統が『平家物語』のように実に複雑な上に、内容の注釈にも高度な専門知識が必要とされる難解な日本の或る古典を、日本で初めて読める形にするという仕事でした。

ゼミではいつも先生が持論を展開され、私は *advocatus diaboli*（「悪魔の代弁者」）の役を演じて、テキストを通読しました。学生の目には、師に対して大変失礼な外国人と映ったかもしれませんが、先生はいつもご機嫌で、私にとっても大いに勉強になりました。というのも、反対する立場をとる者も、常に同じことを繰り返してはつまら

なくなりますので、私も自分の主張を裏付ける論拠を次々と示さなければならなかったからです。

実は先生も私も同じ悩みを抱えていました。欧米ではこのような議論が学問に欠かせないやり方なのですが、日本ではすぐにただの感情的な喧嘩となってしまう、生産性がない場合が殆どだからです。そのため、先生も国内の同業者には睨まれ、私も日本ではこの先生以外には刺戟になる議論相手には恵まれませんでした。

ご退職後は、他大学の学長職をお引き受けになったという事情も重なって、先生もこちらにも忙しく、直接お会いする機会はめっきり減ってしまいました。それでも八十歳を越えても積極的に研究をお進めになっていた先生は、新しい発見をなさる度に興奮のあまり眠れぬまま、早朝、グウルベルクさんもおそらくもう起きているだろうと見計らわれた時間になると電話をくださり、その発見を披露してくださるということがありました。私の手元にもほぼ同じ文献が揃うようになっていましたから、私もすぐさま伺ったことを検討して、折り返しの電話で、賛成できることや更なる裏付けが必要と感じたところを率直に申し述べさせて戴いたものでした。

去ってしまった日々を取り戻すことはできませんが、たとえ夢の中であっても、もう一度先生にお目にかかりたい。



フレディ・マーキュリーの声

中村 隆之



高校生から大学生にかけてクイーンをよく聴いた時期があった。歌手フレディ・マーキュリー（1946-1991）を中心としたロックバンドで、茫漠とした記憶をたどってみると高校時代に英語か世界史の女性の教師が授業内で紹介してくれて気に入ったのだと思う。買ってきたクイーンのベストアルバムは、母と弟の耳にまで届き、みんなで好んで聴いたものだった。その頃、デヴィッド・ボウイやプリンスを個人的にはよく聴いたのだが、母と弟が気に入ったのはクイーンだった。私たちはフレディのハイトーンの美声や、〈ボヘミアン・ラプソディ〉に代表されるバンドのドラマティックな楽曲と演奏に夢中になった。

いまでは聴かなくなってしまったクイーンのことを実に久しぶりに思い出したのは、彼の死後30周年忌に当たる昨年（2020年）に放映された、フレディ・マーキュリーのドキュメンタリー番組を観たことが大きい。その番組は彼の生い立ちからエイズで病死するまでの45年の人生を、音楽活動と私生活の双方からたどりのすものだった。同性愛者であること、アフリカのザンジバルで生まれたといった挿話は知っていたが、私生活に関する赤裸々な証言は今回が初めてで、音楽だけに触れていたときのイメージとは、ずいぶんかけ離れており、驚い

て受け止めた。しかもそのことを包み隠さず話すのは、余命を意識したフレディ自身の声だった。

ドキュメンタリーが描くフレディ像は、彼自身が証言する「グレート・プリテンダー」としてのそれだった。ファルーク・バルサラという名で生まれたその人物は、フレディ・マーキュリーと名乗ることにより、自覚的にこの架空のキャラクター（あの男性性を強調する相貌）を舞台上で演じ続けたのだ。たしかに、それはありのままの自分ではないが、虚像とも言えない。フレディとは、彼が作った芸術家としての類稀な才能をもったペルソナであり、彼はいわばファルーク・バルサラとして生まれ、フレディ・マーキュリーとして死んだのだった。

クイーンとフレディをよく聴いていた当時の私たちは、そのことを知る由もなかった。ではファンは「グレート・プリテンダー」を自覚的に演じ切ったフレディの、その見かけだけを愛していたのだろうか。そうではないはずだ。その演技に宿るリアリティ、その偽ることのない声とパッションは、当時の私たちを魅了しただけでなく、現にいまの私にこの文章を書かせている。会ったこともないフレディの声を聴く者がいるかぎり、彼の人生の断片を誰かが生きている。



「時の芸術」が示唆するもの

橋本有生 

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。新入生のみなさん、はじめまして。今回、「あの人に会いたい」というテーマを拝しまして、どのようなお話しをしようか迷いましたが、自己紹介を兼ねて私の趣味とする分野の偉人を取り上げてみたいと思います。

一人目は、マルセル・モイーズ (1889-1984)。20世紀最大のフルート奏者と称されています。幼い頃からフルートを習っていた私にとって、今回のテーマを語る上で欠くことのできない人物です。演奏家には、テクニックの確かさや情感ゆたかな表現力等いろいろなものが求められますが、音色のうつくしさも重要です。モイーズは、低音から高音まで粒のそろった均一に響く音色を手に入れるための練習方法を考案したことでも知られています。私も地味で退屈な練習に嫌気がさしたのですが、この基礎練習を毎日繰り返すことこそが上達への近道であることを身をもって学びました。後世のフルート奏者に多大な影響を及ぼしたモイーズ。彼の演奏には、すべての音に意味をもたせ、フルートという楽器に真摯に向き合う誠実な姿勢があらわれています。

二人目は、グスタフ・レオンハルト (1928-2012)。私にとってチェンバロは、フルートの次に、あるいはそれ以上に身近な楽器でした。私の母がチェンバロ奏者であったことから、幼少期はおもちゃ代わりに遊んでいました。最も好んで聴いていたのもこの楽器が活躍するバロック作品で、その中で見つけたレオンハルトの表現する煌びやかで躍

動感あふれる世界に惹かれました。彼の最大の功績は、19世紀に入り廃れてしまった歴史的チェンバロを「復興」させた点にあります。古いものの良さを見出し、再現芸術の原点に立ち返ったレオンハルト。新しいものに目が移ることはもちろん悪いことではありませんが、新陳代謝の激しい現代社会に生きる者として故きを温ねて新しきを知るという精神も忘れてはならないものだと思います。

最後の一人は、ヴィルヘルム・バックハウス (1884-1969) です。85歳で亡くなる一週間前までピアノリサイタルを開催したという逸話が残っています。まさにその生涯を通じてピアニストとして活躍し、真の意味での現役であり続けた人です。インターネット上でも、晩年の神々しいまでの演奏を視聴できますが、とくに1967年に収録されたベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番の映像は、今もなお多くの人に深い感動を与えています。老いても成長し続ける姿がまぶしく映ります。

この三名に共通するのは、その音楽性だけでなく、物事への向き合い方が魅力的であるということです。戦間期から戦後の過酷な時代に音楽を生業とした人の苦労ははかり知れません。彼らの芸術は、このような苦難を乗り越えたところに真価があると思われます。「時の芸術」といわれる音楽は、時の流れと共に消えゆく儚いものです。だからこそ、三人の演奏は尊く感じられ、人々の生活に無くてはならない彩りや癒やしを与え、素晴らしい世界を示してくれます。

永きにわたり

早稲田大学での10年を振り返って

教授 磯村 保



私は、1974年3月に京都大学法学部を卒業し、同年4月から神戸大学法学部助手となり、38年間、神戸大学に在職し、2012年4月に本学の法務研究科に着任した。もともと京都出身であり、近い親族もみな関西圏在住ということで、東京の大学で勤務することはまったく念頭になかったが、法学学術院からお声がけをいただき、定年までの10年間、新しい環境で教育・研究に携わることも面白いかもしれないと考え、移籍をすることになった。とはいえ、自宅が神戸にあり、家族の事情等から生活の基盤を東京に移すことは難しく、月曜日から水曜日まで大学に出校し、週の後半は神戸の自宅で仕事を生活となった。毎週の神戸・東京往復の疲れを心配していただくこともあったが、幸い、なんとか無事に定年を迎えることができた。

本学での所属は法務研究科であったが、着任当初から学部授業にも関わり、民法の必修科目である債権各論Ⅰ及び選択科目である応用民法Ⅰ・応用民法Ⅱ等を担当してきた。大講義科目は教員の一方的なレクチャーに終わり、学生諸君もノートをとることに懸命になりがちであることから、詳しい授業資料を事前にWeb上に掲載し、必要に応じて予習や復習に利用することができるように工夫した。授業中は、履修者が自分で理解し、自分の頭で考えることが大切であることから、授業資料でも多くの具体的な事例を取り上げ、抽象的・一般的な理論が事例

の解決とどう結びつくのかを示すように努めた。応用民法Ⅰ・Ⅱは、応用的な事例問題を取り扱う科目であり、レベル的には法科大学院2年次に相当する内容であったが、質疑応答を行わないという点で、法科大学院の授業とは異なるものであった。着任当初は40～50名程度の履修者数であったが、その後、履修者数が増加し、この数年は、150～200名に達することもあった。

学部では残念ながら演習科目を担当することがなく、学部生の皆さんとパーソナルな交流を深めることはできなかったが、私の担当した学部授業を履修した方々が法科大学院に進学され、法科大学院の必修科目や選択科目の中で親しく接する機会を得ることも少なくなかった。

この2年間は、コロナ禍の影響で学部授業をオンデマンド方式で行わざるを得なかった。リモート授業の功罪について種々の議論はあるが、私自身は、たとえ、大講義であっても、学生諸君が大きく頷いたり、首を傾げたりする反応を見ながら授業をすることが大切であると考えており、一日も早く、教場での授業が全面的に復活するよう願ってやまない。

2021年度 退職教員挨拶

留学のすすめ

教授 清水 章雄



2022年3月に70歳で定年退職するまで、15歳で高等学院に入学し、法学部と大学院法学研究科に在学し、その後の13年間は他大学で教えていたが、1994年に早稲田へ戻り、法学部、法務研究科、法学研究科、さらに兼担で他学部において教えていたので、本当に「永きにわたり」早稲田に関わっていた。ただし、そのなかで通算6年間は、留学と特別研究期間（いわゆる在外研究）で外国に行っていた。今となってみると6年はさほど長い期間ではないが、本稿には学生へのメッセージを書くようにとの依頼であったので、その期間のことを中心に記す。

高校在学中に1969年から1970年にかけて、アメリカンフィールドサービス（AFS）という組織をとおしてロスアンジェルス近郊のハイスクールに行った。面白い時代であったし、日本の私立男子校と西海岸の多様性に満ちた公立共学校を比べると驚かされることが非常に多く、その後の人生に大きく影響した。

学部2年生の時には、早稲田の交換留学制度によりミシガン州にあるカラマズー大学に1年間行くことができた。ここは全寮制の非常に小さな大学で、学生生活も早稲田と非常に異なっており、自らの生活態度も大きく変わった。また、多少の大講義もあったもののどの科目でも少人数教育が中心で、その重要性を強く認識した。このことは、法学部で導入

法学演習を毎年必ず開講していたことの一因かもしれない。

大学院博士課程の途中で、米国のロースクールに行こうと思い立ち、奨学金を提供してくれたイェールロースクールのLLM課程に入った。そのとき及び早稲田に戻ってしばらくしてからケンブリッジ大学のラウターバクト国際法研究所において在外研究を行った2年間に非常に有益な経験をしたことから、法務研学生の米国等のロースクールへの留学制度の確立と運営のために法務研の設立以来、退職したこの3月まで、できるだけことをしてきた。ラウターバクト国際法研究所において再度1年間を過ごした期間を含め、法務研の同僚と関係事務職員とともに学生の留学その他の国際交流に携わることにより早稲田大学に多少の貢献を行うことができたと思う。

我が国において最近では留学を希望する学生が減ったと聞いているが、早稲田では種々の制度を使ってこれが可能なので、できるだけ多くの学生が外国で学ぶことを期待する。

コロナ後の大学に向けて

教授 高橋 則夫



まさか自分が定年を迎えるとは思ってもみませんでしたが、「人生は、事前判断としては長い、事後判断としては短い。」という持論が確証されました。さらに、定年前に、コロナ禍になるとは驚愕であり、「人生一寸先が闇である。」ことも実感しました。

こうしたコロナ禍の中で、大学とは何かについていろいろ考えさせられました。オンライン授業、コンテンツ配信など、これまで経験したことのない作業も強いられましたが、これらはあくまでも例外状態です。大学の授業では、こちらの分かりきったことを教える面も確かにありますが、それだけではなく、何が起ころるか分からないという知的な驚きが必要なのです。講義の途中で、「この点は違うかな。この点はよく分かっていないなあ。」という自問の瞬間もあり、また、ゼミなどにおける学生諸君の議論の中で、「そういう考え方もできるな。この点が学生諸君の躓きの石なのか。」ということも知るわけです。これらの知的生成は、まさにリアルでなければできないことです。また、これまで恒例だったコンパや合宿などができなくなり、さらには、研究会や学会などがオンライン開催になるなど、様々な日常性が失われてしまいました。これらの日常性がいかに貴重なものであったかを思い知らされると共に、日常性というものが、当たり前存在するものではなく、努力して獲得されるべきものであることも実感しました。

コロナ禍が収束したら、大学の本来あるべき姿を

忘れないことが大事だと思います。ヘーゲルは、「大学は人生の日曜日である。」と言いましたが、これは、何をするか決まっていないという自由の重要性を説いたものです。学生諸君がみな自由に考え、自由に行動できる場を提供するのが大学であり、その中で、みなが暗中模索していくことが必要だと思います。とくに早稲田は3密を基本とする大学なので、飛沫を飛ばしながら議論し、肩を組みながら大声で「紺碧の空」を歌うことこそ、早稲田のレゾンデートルといえるでしょう。

法学部は、たしかに必修科目が多く、もっと自由に勉強したいと思っている学生諸君もいるかもしれませんが、「法の世界」を学ぶためには、一定の基本科目を学ぶ必要があるのです。法曹志望や法律関係の仕事を希望している学生諸君は、当然この世界に入らざるを得ませんが、そうではない人にとっても、この「法の世界」に入ることによって、「ものの見方」「他者の考え方」「論理的思考」などを学び、これらは今後の人生において重要な財産になると確信しています。

学生諸君、どうか健康に留意して、自分が夢中になれることを発見して下さい。そして、これからの人生が幸運なものであることを心から願っています。

早稲田大学での10年間を振り返って

教授 本間 靖規



2012年4月1日に着任してから瞬く間に10年が過ぎようとしている。そしてあとわずかで定年を迎える。20代の終わりに京都の龍谷大学に就職し、その後、研究者としての壮年期を名古屋大学で過ごし、総仕上げのつもりで60歳にして早稲田に来た。そして10年、まだやり残したことはたくさんあるが、時間に追われるがごとく去らねばならない。早稲田でお世話になった期間、いろいろと考えさせられたことがあったが、少し緩ってみようと思う。まず1番最初に感じたのは、早稲田大学やそのおかれた東京という街のスケールの大きさである。それまで私がいた大学は、決して小規模とはいえない大学であったが、早稲田に比べれば村的な共同体といえるものであった。教授会でもメンバーの顔をグルッと見渡すとそれぞれの意見が見えて来て自ずから全体の雰囲気分かる感じがあった。早稲田は人数的にもそれが不可能であり、また人間関係もそれほど密ではない。用語の厳密な使い方は別とするとまるでゲマインシャフトからゲゼルシャフトに移り住むにいたったように思われた。この大きな規模では、この組織を上手に動かすのは容易なことではない。また龍谷大学のときも名古屋大学のときも同僚が昼食を取る場所が限られていたので、行くと誰かに会い、自然と話ができて交流の場となっていたが、早稲田

ではそれがほとんどなかった。多くの同僚ともっと様々に交流できなかったのは残念であった。私の性格の問題もあるが、もう少し大学インフラ的に改善の余地がありそうな感じがするがいかがであろうか。とはいえ、早稲田は優秀な人材がいて頼もしく、研究環境には優れたものがある。そのおかげもあってこの10年間、1年も欠かさず科研費を支給されてきた。早稲田でなかったらこのような恩恵にあずかることは難しかったであろう。優れた人材は教員のみではない。まず、私はゼミ生に恵まれた。本好きが集まる導入演習では、学生が好んで読む本に目が開かれたし、専門演習ではさすが早稲田と思わせる多くの学生から刺激を受け、心優しい学生に励まされる経験をした。また事務職員の方々にも大いに助けられた。結局つまるところ大学は人である。優れた人がいる大学が優れた大学となる。その意味で、振り返ってみると幸福な10年であったとつくづく思う。大学構成員の皆さまには感謝しかない。ありがとうございました。

私は法学部生

やってみてわかること

藺田将直 (2022年3月 法学部卒業)

私は法学部生として4年間応援部に所属し、最後の1年は部の主将として早稲田での日々を過ごしてきました。今振り返っても、法学部での学びがあってこそこの応援部生活だったと確信しています。

そもそも私が法学部への進学を決めた理由は、物事の基盤に法があり、法を学ぶことで世の中の仕組みを理解できるのではと考えたからでした。実際その通りで、入学後は長い文章を少しずつ噛み砕きながら読み進めることに苦労しつつも、多様な解釈や効果を持つ法の奥深さを知ることが出来ました。

法学部で最も教訓になったのは、「はじめはひたすら知識を詰め込み、後から段々と意味合いを理解していくプロセスの大切さ」です。この教訓は試験前の勉強過程から感じたもので、まずは知識や模範解答を頭に叩き込



2018年8月、新人夏合宿での練習姿

んで「気づき」を得るための要素をインプットし、徐々に全体の流れや本質的部分に目を向けていくと内容の理解が早いというものです。新たな事に取り組む時には、深く考え過ぎずにまずは片っ端から頭に入れて、徐々に知識を繋ぎ合わせる。私はこの流れを、応援部での後輩指導や学生生活そのものに転用してきました。私はもちろん、最初から何にでも視野が広い人なんて居ないので、物事を知らなければずっと気づかぬままになりがちです。序盤こそ細かく教えて教えられて、少しずつ自身で考えていく、このプロセスが自身の成長に導いてくれるのではないのでしょうか。

応援部での4年間は厳しいと感じることも多く、特に新人時代は何故こんなことをしなければならないのか、ここまで指摘される必要はあるのかと疑問に思う瞬間もありました。しかしだからこそ、経験を重ね学年が上がる度に学んできたことの意味を認識し、部全体の流れを理解して4年間部活動をやりきる事が出来ました。新入生の皆さん、法学部での勉強にはじめは苦手意識を持つことがあるかもしれませんが、知らないのは当然です。まずやってみて、取り掛かっていくうちに分かっていくことが沢山あります。何事も手を出して失敗して考えて、そして視野を広げて、ご自身の成長に繋げてください。早稲田での日々は刺激を受けることばかりです。最高の4年間を。



2021年4月、主将として挑む
神宮野球応援

法学部生×留学

藤井 優実 (2022年3月 法学部卒業)

2018年4月、入学式で抱えきれない量のサークル勧誘ビラを手にも、私の大学生活が始まりました。まもなく卒業を迎えますが、大学生活においてやり残してしまったことはあっても、後悔していることはありません。それは自分のやりたいことに挑戦できたからだと思います。

有難いことに、私は大学時代に2度留学することが出来ました。1度目は、1年時に参加した2週間のハワイ大学ロースクール研修、2度目は、2年時の8月から行った1年間のコペンハーゲン大学留学です。授業、日常生活、友人との会話、些細なこと1つをとっても異国での日々は刺激的でした。英語で法律を学び、感じた高揚感は今でも覚えています。長期留学を選択することで、4年卒業できないのではないかという懸念を抱いていましたが、無事に4年で単位を取り切り、卒業を迎えます。



留学時に友人と（筆者左）



ハワイ大学ロースクール研修にて（筆者左から5人目）

進む道や価値観が異なるからこそ切磋琢磨し合える友人と出会えたことも含めて実りの多い留学期間でした。

新型コロナウイルスによって様々な活動が制限され、もどかしい思いをした学生はたくさんいると思います。私自身、2020年3月に突然の帰国を余儀なくされた時にはやり切れない気持ちでした。しかし「もしコロナ禍でなかったら」と悲観的に考えるのではなく、「今できること」をもっと大切にしようと思えるようになった心境の変化もありました。

4年間を通して、法学の知識のみならず、物事を論理的に捉えること、多角的な視点から考えることの重要性を学びました。論述形式の試験でも「書く力」、「書ききる力」を身につけられたと感じています。また、法学部生は強い芯を持っている人が多い印象を抱きました。自分も頑張ろうと駆り立てられる場面が多くあり、本当にありがたい出会いです。

卒業後はメーカー企業の法務部で働く予定です。漠然と法学部に入学した自分にとって、入学時には想像もつかなかった進路ですが、法学部での学びを胸に社会人として歩んでいきたいです。最後になりますが、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんを待っている出来事1つ1つに真摯に向き合い、充実した日々を過ごしてください。陰ながら応援しています。

先端科学技術と新しいお遍路

教授 肥塚肇雄 2022年4月嘱任



国立大学法人香川大学 法学部で約20年間勤務し、その間、「うどん遍路」をしていました。本年度早稲田大学に着任し法学部で新規開設の「先端科学技術と法」コースに係る科目を担当します。

先端科学技術は急速に進展しておりそれに対し不安感を抱く人も多く、先端科学技術の活用に対して適正な法規制のあり方が求められています。この意味で、本コースに対する社会の期待はたいへん大きいものがあり、このような本コースの一翼を担うべく教育研究に従事できることはたいへん光栄であります。

ところで、先端科学技術という言葉から、自動運転、ブロックチェーン、ドローン、オンライン診療等々が実装化された未来社会をイメージすることができます。アニメ好きな学生は『攻殻機動隊』の世界を思い出すかもしれません。先端科学技術は複雑でその技術内容を把握することは容易ではありませんが、学生の皆さんが少しでも「先端科学技術と法」についての興味と関心を高められるように工夫をしていきたいと思います。

先端科学技術が社会に実装化されれば、誰一人取り残さないで「多様性（diversity）のある社会」が築き上げられるのではないかと期待感がありますが、先端科学技術が社会に浸透すればするほど、わたくしたちは従来では考えられなかった法的な課題に直面すると思われます。このような課題には「正解」はありませんが、先端科学技術による恩恵をすべての人が享受できる人間中心の社会の構築に向け「法のあるべき姿」を求めて、解決策を探っていくことはたいへん重要です。

伝統ある早稲田の「法」の学び舎で、アニメで示された様々な先端科学技術が社会に実装化されたシーンを想像するときのワクワク感を学生の皆さんとともに共有し、未来社会における「法のあるべき姿」を求め「お遍路」したいと思います。そして、皆さんと一緒に議論を交わしながら、日本に、そして世界に誇れる、早稲田大学らしいオンリーワンの「先端科学技術と法」コースに育て有為な人材の育成に少しでもお手伝いすることができれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

法哲学・法倫理的な観点から

講師（任期付） **平井光貴** 2022年4月嘱任



2022年4月から講師（任期付）として着任しました平井光貴と申します。専門は法哲学です。本年度は、導入演習、および「先端科学技術と法倫理」にかかわる講義・演習等を担当します。

皆さんの中には、「法哲学」（あるいは「法倫理」）とはいったい何について論じる学問分野であるのか、それが「先端科学技術」とどのようにかわるのか、いまひとつよくわからないという方もいらっしゃると思います。

「法哲学」「法倫理」とは何か、という問いに一言で答えるのは実は難しく、論者によっていろいろな答えが返ってくると思いますが、ごく大まかにいえば、どのような法制度が規範的に言って望ましいかを、必ずしも特定の法体系——たとえば日本法とかアメリカ法とか——を前提とすることなく論じる学問分野です（と、少なくとも私は捉えています）。

つまり、「先端科学技術と法倫理」という授業においては、先端科学技術とのかかわりにおいて、法制度はどのように設計するのが望ましいのかを論じることになります。たとえば、クローン技術をいかなる仕方で推奨／規制するのが望ましいのか、AI技術をいかなる仕方で推奨／規制するのが望ましいのか…といった論点を、従前の法哲学・政治哲学あるいは倫理学といった規範的な学問分野の知見を活かして検討していくことになるでしょう。

ただし、先端科学技術は文字通り先端的な分野であって、そこからどのような（法哲学的・法倫理的）論点が生じるかは、まだまだ未開拓で未知の部分が多く、そこで、受講生の皆さんに協力を（できる限りハードルを低めた仕方で）仰ぐこともあるかもしれません。どうぞよろしくお願いします。

自分(の適性)を見つける

講師（任期付） **十河隼人** 2022年4月嘱任



2022年4月より講師（任期付）として着任いたしました、十河隼人と申します。専門は刑法です。導入演習、外国法特論、外国書講読を担当します。

私が早稲田大学法学部を卒業してから5年ほど経ちますが、当時の同期たちは現在、弁護士、公務員、会社員、プロの塾講師など、様々な道で活躍しています。そんな同期たちの共通点は、努力はしても、ただ苦しいだけの努力ではなく、自己効力感というか、「これが自分に向いている」、「これをするのが自分だ」という感覚のもとで頑張っていたところにあったのかな、と思います。

私自身は、大学に入ったばかりの頃、何をしたらよいのかわからず、なかなか大学に馴染めない感じもありました。しかし、第二外国語の面白さに気づいたり、刑法や哲学に興味を持って色々勉強したりするうちに、周りの皆から「研究好きな奴」と理解してもらえるようになり、そうしたキャラクターに自分自身でも納得するにつけ、友達もでき、大学が楽しくなっていきました。その流れのまま大学院に進学し、現在に至っています。

大学は単位や資格を取るだけの場所ではないし、就職の準備をするだけの場所でもありません。大学は多様性に溢れた場所であり、早稲田は特にそうだと思います。誰にでも居場所があります。他人より優れていたり、キラキラしていたりする必要はありません。何でも良いから自分が自然に、あまり苦にならずに続けられること、その意味での「自分の適性」が見つければ、そこから、将来の「自分」を作り上げてゆくことができます。

自分探しをする上で、早稲田はとてもよい環境であると思います。皆さんが楽しく有意義な大学生活を送られることを期待します。

教員紹介

「2022年度に法学部で授業を担当される法学部・法務研究科の先生方をご紹介します。データは、2022年4月時点のものです。

【凡例】職名、氏名、顔写真、Email/URL（公開されている先生のみ）、法学部での担当科目、研究テーマ、主な研究業績。



あいきょう こうじ
愛敬 浩二

教授

法学部担当科目 憲法
研究テーマ 憲法理論、比較憲法

研究業績

「EU離脱問題後のイギリス憲法学における政治的憲法論」山元一ほか編『憲法の普遍性と歴史性』（日本評論社、2019年）、『立憲主義の復権と憲法理論』（日本評論社、2012年）、『改憲問題』（ちくま新書、2006年）、『近代立憲主義思想の原像』（法律文化社、2003年）など



あおき のりゆき
青木 則幸

教授

法学部担当科目 民法
研究テーマ 民法財産法（金融担保法のほか、契約自由の制約に関する理論など）

研究業績

「アメリカにおける賃料譲渡制度の史的考察（一）～（五・完）」法研論集95、96、97、100、101号（2000年～2002年）、「アメリカの動産債権担保法と日米のABL取引類型論」NBL1070号（2016年）、「ソフトローに違反する法律行為」NBL1128号（2018年）など

aoki@waseda.jp



あきやま やすひろ
秋山 靖浩

教授

法学部担当科目 民法
研究テーマ 土地の所有および利用の調整に関する民法の基礎理論、不動産をめぐる民法上の諸問題

研究業績

『不動産法入門』（日本評論社）、『リーガル・リサーチ＆レポート』『LEGAL QUEST 民法2物権』『民法①総則・判例30』（いずれも共著、有斐閣）、『物権法』（共著、日本評論社）、『債権法改正と判例の行方』（共編著、日本評論社）など



いしだ きょうこ
石田 京子

教授

法学部担当科目 災害と法
ジェンダーと法Ⅰ
研究テーマ 法曹倫理、法社会学、ジェンダー法

研究業績

「第4版 アメリカの法曹倫理：事例解説」（共訳、彩流社2015）、「弁護士キャリアの『ガラスの天井』の構造分析」（ジェンダーと法12号）、「スタッフ弁護士の連携活動における倫理問題」（法律総合支援論叢7号）、「ABA弁護士懲戒実施模範規則の紹介と試説」（比較法学48巻2号）、「ライフイベントと専門職生活」（『変革期の日本の弁護士』日本評論社2015所収）、「Ethics and Regulations of Legal Service Providers in Japan」（VDM Publishing 2011）



いしだ ちえ
石田 智恵

准教授

法学部担当科目 西語、教養演習スペイン語圏、持続可能な世界のための人文学
研究テーマ ラテンアメリカ研究（アルゼンチン）、文化人類学

研究業績

『同定の政治、転覆する声——アルゼンチンの「失踪者」と日系人』（春風社、2020）、「異貌の同時代」（共編、以文社、2017）、「Interpelación o autonomía. El caso de la identidad nikkei en la comunidad argentino-japonesa」（共著、Alteridades、2017）

ishidachie@waseda.jp



いわむら けんじろう
岩村 健二郎

准教授

法学部担当科目 スペイン語（初・中級）／教養演習スペイン語圏
研究テーマ キューバ歴史学・思想

研究業績

論文「『文化』の理論と実践——キューバの二つの事例から考える」早稲田大学法学会『人文論集』第58号、「現代キューバにおける『人種』と『歴史』——有色人独立党の反乱（1912）を巡って」早稲田大学法学会『人文論集』第55号、「ある文化的同一性の主張——フェルナンデス＝レタマールの“キャリアニズム”——」早稲田大学法学会『人文論集』第53号

iwamura@waseda.jp



うちだ よしあつ
内田 義厚

教授

法学部担当科目 法曹演習、主専攻法学演習
研究テーマ 民事手続法、特に民事執行法

研究業績

著書「民事執行・保全15講」（成文堂）、「執行関係訴訟の理論と実務」（民事法研究会）など



えぐち だいすけ
江口 大輔

准教授

法学部担当科目 ドイツ語
研究テーマ 18世紀ドイツ語圏文学

研究業績

「想像力の参照先」（『シェリング年報』、2014）、「J・J・ブライティンガー『批判的詩論』における『真理』と『真実らしさ』」（『文芸研究』、2013）など

uenot@waseda.jp



うえの たつひろ
上野 達弘

教授

法学部担当科目 知的財産権法Ⅰ／情報化社会と法Ⅱ
研究テーマ 知的財産法、著作権法

研究業績

「特許法入門〔第2版〕」（共著、有斐閣、2021年）、「著作権法入門〔第3版〕」（共著、有斐閣、2021年）、「〈ケース研究〉著作物の類似性判断——ビジュアルアート編」（共著、勁草書房、2021年）

	教授	
	法学部担当科目 憲法	研究テーマ 人権と制度の関係、政教分離原則、地域統合と憲法
	研究業績 「多元主義法理論の共時性と通時性」(2016年)、「イタリアにおける国家の非宗教性原則と公共空間における宗教的標章」(2013年)、「『EU立憲主義』とイタリア憲法」(2010年)、「フランスにおける国家の非宗教性原則の運用と共和主義」(2008年)	

えはら かつゆき
江原 勝行

	准教授	
	法学部担当科目 導入演習(必修、選択)	研究テーマ 緊急避難論、不処罰事由論
	研究業績 緊急避難論の再検討(1)～(7) 法学協会雑誌131巻1-2号、6-7号、12号(2014年)、同132巻7号(2015年)、同133巻5号(2016年)、「緊急避難論の再検討」刑法雑誌57巻2号(2018年)	

えんどう そうた
遠藤 聡太

	教授	
	法学部担当科目 雇用差別と法、労働市場法	研究テーマ 非正規雇用の法的保護
	研究業績 「イタリアにおける均等待遇原則の生成と展開—均等待遇原則と私的自治の相克をめぐって」(日本評論社、2016年)、「外部市場・非正規雇用と労働法制」(日本労働法学会編『講座労働法の再生第6巻 労働法のフロンティア』(日本評論社、2017年)所収)など	

おおき まさとし
大木 正俊

	教授	
	法学部担当科目 民法Ⅱ(物権法)／民法Ⅲ(債権総論Ⅰ・Ⅱ)／民法Ⅳ(債権各論Ⅰ)／民法Ⅴ(担保法)／専攻法学演習	研究テーマ 保証(担保)法制、金融取引における当事者間の利害調整に係る法学的アプローチ
	研究業績 「保証の行方—『超高齢社会と担保法』序説—」(慶應法学44号、2020年)、「担保保存義務の意義と特約の文書」『社会の発展と民法学(下巻)』(成文堂、2019年)、「フランス法における保証債務の履行と保証人の保護」早稲田法学91巻3号(2016年)、「フランスにおける金融機関の融資取引に関する義務と責任(1)(2・完)」早稲田法学85巻4号、86巻1号(2010年)、「フランスにおける保証人の保護に関する法律の生成と展開(1)(2・完)」比較法学42巻2号、同3号(2009年)	

おおさわ しんたろう
大澤 慎太郎

	教授	
	法学部担当科目 民法／環境法	研究テーマ 不法行為法・環境法をめぐる法的政策的問題
	研究業績 『環境法』(2020年)、『環境法BASIC』(2021年)、『国内排出枠取引制度と温暖化対策』(2011年)、『環境法研究して1号～11号』(2014年～)『環境リスク管理と予防原則』(共編、2011年)、『生活妨害の差止に関する基礎的考察』法学協会雑誌103巻4号・107巻4号(1986-90年)	

おおつか ただし
大塚 直

	教授	
	法学部担当科目 会社法／保険法	研究テーマ 第三者のためにする生命保険契約の「対価関係」について
	研究業績 『会社法のみちしるべ(第2版)』(有斐閣)、『商法総則・商行為法(第3版)』(有斐閣)、『法の世界へ(第8版)』(有斐閣)、『保険法42条に関する少考』(保険学雑誌、日本保険学会)	

おおつか ひであき
大塚 英明

w164149@waseda.jp

	教授	
	法学部担当科目 民法	研究テーマ 不動産公示制度論、物権変動の法的構造、物権債権峻別論批判
	研究業績 『不動産公示制度論』(成文堂、2010年)、『物権法講義案(第3版)』(成文堂、2015年)、『時効取得の裁判と登記』(共著、民事法研究会、2015年)、『ドイツ物権法』(共訳、成文堂、2016年)、『物権変動の法的構造』(成文堂、2019年)、『物権法(第3版)』(共著、日本評論社、2022年)	

おおば ひろゆき
大場 浩之

hiro911@waseda.jp

	教授	
	法学部担当科目 フランス法	研究テーマ フランスにおける国家の経済関与
	研究業績 「独立行政機関とフランス行政法」早稲田法学94巻4号、「フランスの不正競争訴訟における損害について」『知的財産法研究の輪』所収、「『フランス公役務の危機』の構造——国家独占の論理とEU法——」早稲田法学88巻1号、「フランスの不正競争防止法制(1)(2・完)」早稲田法学85巻1号、2号	

おおはし あさや
大橋 麻也

asaya@waseda.jp

	准教授	
	法学部担当科目 中国語／教養演習	研究テーマ 中国古典文学、書論
	研究業績 『図説文明史7 宋 成熟する文明』(創元社、2006年)、「虎丘剣池題字考」(『中国古籍流通学の確立—流通する古籍・流通する文化』雄山閣、2007年)、「白玉蟾『鰲仙庵序』における『蘭亭序』の反映—同時代の王羲之の評価をふまえて」(『中国古籍文化研究 稲畑耕一郎教授退休記念論集』東方書店、2018年)	

おおもり のぶのり
大森 信徳

	教授	
	法学部担当科目 手形法・小切手法／導入演習／専攻法学演習／外国書講読	研究テーマ 株式会社における会社支配と企業統治
	研究業績 「スウェーデンにおける家族保有の下での会社支配」『企業法の現代的課題』(成文堂)、「スウェーデン会社法の下での株主の平等的取扱いと少数派株主の保護」『現代商事法の諸問題』(成文堂)、「生命保険募集における説明義務」生命保険論集213	

おがた しゅう
尾形 祥

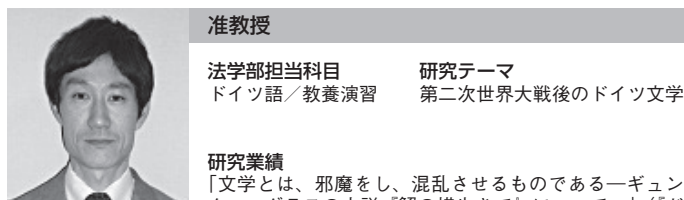
	教授	
	法学部担当科目 専攻法学演習	研究テーマ 独占禁止法
	研究業績 独占禁止法の理論と展開 [2] (三省堂)、独占禁止手続法(有斐閣)、新現代経済法入門 [第2版] (法律文化社)、コンビニフランチャイズはどこへ行く(花伝社)、独占禁止法を学ぶ(有斐閣)など	

おかだ としひろ
岡田 外司博

	教授	
	法学部担当科目 行政法	研究テーマ 行政救済法の歴史分析
	研究業績 『国の不法行為責任と公権力の概念史』(弘文堂、2013年)、『現代行政法講座・第1巻』(共著、日本評論社、2016年)、『私権・人種と市民的権利』水林・吉田編『市民社会と市民法』(日本評論社、2018年)、『「六法」という思想』早稲田法学94巻4号(2019年)	

おかだ まさひろ
岡田 正則

m-okada@waseda.jp



おかやま ともたか
岡山 具隆

准教授

法学部担当科目 研究テーマ
ドイツ語／教養演習 第二次世界大戦後のドイツ文学

研究業績
「文学とは、邪魔をし、混乱させるものである—ギュンター・グラスの小説『蟹の横歩き』について—」(『ドイツ文学』、2007)、「ギュンター・グラスの自伝的小説『玉ねぎの皮をむきながら』試論」(『学苑』、2009)



おがわ よしき
小川 佳樹

教授

法学部担当科目 研究テーマ
刑事訴訟法 捜査法、刑事証拠法

研究業績
「取調べの録音・録画記録媒体の証拠としての使用」論
究ジュリスト31号(2019年)、「排除法則について」酒
巻匡ほか編『井上正仁先生古稀祝賀論文集』(2019年)
など



おさき やすひろ
尾崎 安次

教授

法学部担当科目 研究テーマ
会社法Ⅱ／外国書講読 株主総会をめぐる諸問題、企業
／主専攻法学演習(商 会計法 商品先物取引法 営利法
法) 人以外の法人組織のガバナンス

研究業績
最近公開されたものとして、「株主総会資料の電子提供
制度」ジュリスト1542号(2020年)、「適合性の原則」『金
融商品取引法の理論・実務・判例』(2019年)、「定時株
式総会とは何か」ディスクロージャー&IR11号(2019
年)など

osaki@waseda.jp



おとぐろ りょう
乙黒 亮

教授

法学部担当科目 研究テーマ
英語／言語学／ 認知科学、形態論、統語論、
教養演習 言語類型論
研究業績
“Inflectional morphology and syntax in correspondence”
(Morphology and Its Interfaces. John Benjamins. 2011);
“Agreement and path specification in Icelandic.” (CLS 41.
2008); “Formal aspects of morphosyntax in LFG.” (English
Linguistics 24. 2007); “Limits to case” (Competition and
Variation in Natural Languages. Elsevier. 2005)

otoguro@waseda.jp

www.f.waseda.jp/otoguro/



かい かつのり
甲斐 克則

教授

法学部担当科目 研究テーマ
刑事法 刑法・医事法

研究業績
『安楽死と刑法』(成文堂)、『尊厳死と刑法』(成文堂)、『被
験者保護と刑法』(成文堂)、『責任原理と過失犯論(増
補版)』(成文堂)、『生殖医療と刑法』(成文堂)、『医療事
故と刑法』(成文堂)、『終末期医療と刑法』(成文堂)、『企
業犯罪と刑事コンプライアンス』(成文堂)など



かく しゅん
郭 舜

教授

法学部担当科目 研究テーマ
法哲学／グローバル法哲学 法哲学
／主専攻法学演習(法哲学) 法哲学
／外国書講読(英米法哲学)

研究業績
「国際社会に法は存在するか?」(瀧川裕英編『問いかける法哲
学』法律文化社、2016年)、「国際法の課題としての世界正義」
(『世界法年報』34号、2015年)、「グローバル化の中の立法シ
ステム—国内法過程から見た国際法制定過程」(西原博史編
『立法学のフロンティア 第2巻』ナカニシヤ出版、2014年)



かなざわ たかし
金澤 孝

教授

法学部担当科目 研究テーマ
憲法 憲法理論(憲法解釈論、民主政
論、司法審査論)、表現の自由

研究業績
共編著『憲法裁判の現場から考える』(成文堂、2011年)、
『「反多数決主義」という難問」の存在意義に関する若干の
考察』(憲法理論叢書25、2017年)、「書評: ジャック・バ
ルキン著『憲法期循環論』(The Cycles of Constitutional
Time)」(比較法学56巻1号、2022年)



かまの くにき
鎌野 邦樹

教授

法学部担当科目 研究テーマ
法学演習(民法)／ 民法、土地・住宅法
民法Ⅲ／土地法

研究業績
『金銭消費貸借と利息の制限』(一粒社)、『不動産の法律知識
(第2版)』(日本経済新聞社)、『コメンタールマンション区
分所有法(第3版)』(日本評論社)、『マンション法』(有斐閣)、
『マンションの法律Q&A』(有斐閣)、『今日から役立つ民法』
(ナツメ社)、『マンション法案内(第2版)』(動草書房)など

kanazawa@waseda.jp

kkamano@waseda.jp



かわの まりこ
河野 真理子

教授

法学部担当科目 研究テーマ
国際関係法 国家責任、紛争の平和的解決、
国際法特論 投資の保護・促進、国際海洋法
International Law

研究業績
E. McWhinney & M. Kawano, Judge Shigeru oda the
Path to Judicial Wisdom (Nijhoff / Brill, 2005)



かん うんよう
姜 恩英

講師(任期付)

法学部担当科目 研究テーマ
導入演習／外国書講読 海商法
(アメリカ海商法入門)

研究業績
「国際海上物品運送人の責任制限制度における「包」および「単位」
の意義(1)〜(3・完)——英米判例の比較研究を中心として——」早
稲田大学大学院法研論集153号、155〜156号(2015)、「荷送人の価
額通告による海上物品運送人の責任制限排除について——国際海上物
品運送法および船舶証券統一条約の比較を中心として——」早稲田法
学会誌69巻2号(2019)、「アメリカ海上物品運送人の責任制限制度に
おける『公平な機会法理』の新展開」早稲田法学会誌71巻1号(2020)

mkawano@waseda.jp



きくち よしみ
菊池 馨実

教授

法学部担当科目 研究テーマ
社会保障法 年金、医療、福祉・介護、
生活困窮者支援

研究業績
『社会保障の法理念』(有斐閣、2000年)、『社会保障法
制の将来構想』(有斐閣、2010年)、『社会保障法(第2版)』
(有斐閣、2018年)、『社会保障再考—「地域」で支える』
(岩波新書、2019年)。以上、単著ほか多数



きたがわ かよこ
北川 佳世子

教授

法学部担当科目 研究テーマ
刑法Ⅱ／応用刑法Ⅰ 刑事過失、海上犯罪
主専攻法学演習(刑事 法)

研究業績
「欠陥製品回収義務と刑事責任」神山古稀(成文堂)、「海上交
通犯罪と過失犯」現刑38号、「密輸と組織犯罪」海上保安体
制(三省堂)、「医療事故と刑事責任」シリーズ生命倫理学18
巻(丸善出版)、「最近の過失裁判例に寄せて」曹時65巻6、7
号、入門刑事法第8版(有斐閣)など

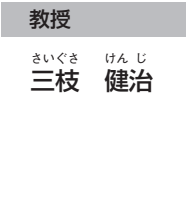
kitagawa@waseda.jp

	教授	
	法学部担当科目 国際取引法	研究テーマ 国際金融、電子商取引
	研究業績 単著『国際取引法講義 第3版』（中央経済社、2021年）、『資金決済システムの法的課題』（国際書院、2003年）、共著『International Monetary and Financial Law』（Oxford University Press、2010年）、『ウィーン売買条約の実務解説 第2版』（中央経済社、2011年）	
t-kubota@waseda.jp		www.f.waseda.jp/t-kubota/

	准教授	
	法学部担当科目 Commercial Arbitration in East Asia, Private International Law, Asia-Pacific Investment Law	研究テーマ International dispute resolution, International investment law
	研究業績 著書 "Most-Favoured-Nation Treatment" in Handbook of International Investment Law (Springer 2020), "Articles 9-11 of the International Centre for Settlement of Investment Disputes (ICSID) Convention" in The ICSID Convention, Regulations, and Rules (Elgar 2019)	
クラクストン ジェームス		

	教授	
	法学部担当科目 資本市場法Ⅰ・Ⅱ	研究テーマ 金融商品取引法・会社法
	研究業績 著書「証券市場の機能と不正取引の規制」（有斐閣）、「アメリカ証券取引法」（弘文堂）、「金融商品取引法」（有斐閣）、「会社法」（商事法務）	
くろき まさる 黒沼 悦郎		

	教授	
	法学部担当科目 民法／消費者法	研究テーマ 契約法に関する研究
	研究業績 「消費者契約の法理論」（単著、弘文堂）、「消費者契約と民法改正」（単著、弘文堂）、「契約法講義（第4版）」（単著、弘文堂）、「条文で読む民法」（単著、法学書院）、プロセス講義民法Ⅳ（共編著、信山社）、プロセス講義民法Ⅴ（共編著、信山社）、「民法総則」（共著、弘文堂）、「条解 消費者三法」（共著、弘文堂）、「基本講義消費者法（第3版）」（共著、日本評論社）、「割賦販売法」（共著、勁草書房）、「消費者法判例インデックス」（共編著、商事法務）など	
ごとう まきのり 後藤 巻則		

	教授	
	法学部担当科目 民法	研究テーマ 契約法、家族法等
	研究業績 「アメリカ契約法における開示義務」早法72巻2号、同3号（1997年）、Contract Law in Japan（共著、Kluwer Law Intl、2019年）	
さいぐさ けんじ 三枝 健治		

	教授	
	法学部担当科目 英語／地域文化／旧植民地の歴史・文化	研究テーマ 演劇・映像学／オーストラリア文化研究
	研究業績 著書「現代演劇と文化の混淆」、著書「オーストラリア映画史—映し出された社会・文化・文学」、共編著「演劇学のキーワードズ」	
さわだ けいじ 澤田 敬司		
ksawada@waseda.jp		homepage2.nifty.com/wombat

	教授	
	法学部担当科目 ドイツ語	研究テーマ フェロー語
	研究業績 「法会と講式」、『南都学・北嶺学の世界—法会と仏道』（法蔵館、2018年3月、51-72ページ）	
グェルベルグ ニールス		
guelberg@waseda.jp		

	教授	
	法学部担当科目 法社会学／農業法	研究テーマ 持続可能社会への転換と法
	研究業績 編著「持続可能社会への転換と法・法律学」（成文堂、2016）、著書「農地を守るとはどういうことか」（農文協、2016）、「物質代謝と法」（比較法研究所「持続可能な世界への法」2020年）、「個体的社会的的所有覚書」（法と社会研究6）2021年）	
くるみさわ よしき 榎澤 能生		
kurumi@waseda.jp		

	教授	
	法学部担当科目 先端科学技術と法入門／自動運転事故をめぐる被害者救済と法／先端医療介護サービスと法／先端科学技術と法演習1～4／導入演習	研究テーマ 先端科学技術と法、リスクと法、損害賠償と法
	研究業績 「MaaS時代における自動運転事故の民事責任と保険—被害者救済の最適なあり方を指向して」野田博他編「商事立法における近時の発展と展望」pp.69-89（中央経済社、2021）、「日本版MaaSの推進とMaaSサイバー保険—自動運転に対するより高い社会的受容性を指向して」保険学雑誌653号pp.89～117（2021）、など	
こえづか ただお 肥塚 肇雄		
kurumi@waseda.jp		

	教授	
	法学部担当科目 刑事政策	研究テーマ 少年法の理論体系の構築
	研究業績 「『虞犯少年』概念の構造（1）～（6・完）」早稲田法学79巻3号～82巻1号（2004年～2006年）、「『虞犯少年』に対応するシステムに関する考察」早稲田法学83巻2号（2008年）、「『非行少年』と責任能力（1）～（3・完）」早稲田法学85巻2号～86巻4号（2010～2011年）、「少年に対する不定期刑についての刑事政策論的考察（1）・（2・完）」早稲田法学90巻3号・4号（2015年）など	
こにし としかず 小西 暁和		
toki@waseda.jp		

	教授	
	法学部担当科目 導入演習／応用刑事訴訟法	研究テーマ 刑事手続法
	研究業績 「刑事訴訟法（第2版）」（単著、有斐閣、2020年）、「条解刑事訴訟法（第4版増補版）」（編集代表、弘文堂、2016年）、「現代の裁判（第8版）」（共著、有斐閣、2022年）、「入門刑事手続法（第8版）」（共著、有斐閣、2020年）	
さかまき ただし 酒巻 匡		

	教授	
	法学部担当科目 ロシア法	研究テーマ 現代ロシア法全般、ロシア法思想、ロシア文学と法など
	研究業績 「法を通してみたロシア国家」（ウェッジ）、「言語権の理論と実践」（共編著、三元社）、「ロシア多民族連邦制と『多文化主義』」（飯田文雄編『多文化主義の政治学』、法政大学出版局）、「ワシーリー・グロスマンと『自由』」（『神戸法学雑誌』69巻1号、4号）など	
しぶや けんじろう 渋谷 謙次郎		



教授

法学部担当科目 雇用関係法／労使関係法／労働市場法

研究テーマ パート・派遣・有期雇用労働者・非雇用の法政策、ホワイトカラーの労働時間制度

研究業績 共著「労働法第六版」(有斐閣)、「条文で学ぶ労働法」(有斐閣)、「ケースブック労働法第四版」(有斐閣)、「目で見える労働法」(有斐閣)、論文「労働時間法政策のこれから」(日本労働研究雑誌)

しまだ よういち
島田 陽一

shimaday@waseda.jp



教授

法学部担当科目 言語学／英語

研究テーマ 語用論、法と言語、社会言語学

研究業績 “How to Translate Apology and Non-apology in Legal Contexts: A Linguistic Analysis of Potentially Serious “Subtle mistranslation” in japan. international Journal for the Semiotics of Law : 32 ; 「商標の普通名称化問題における言語学的論点」(社会言語科学7 : 2) ; The Presupposition and Discourse Function of the Japanese Particle Mo (Routledge).

しゅど さちこ
首藤 佐智子

shudo@waseda.jp www.f.waseda.jp/shudo/



教授

法学部担当科目 EU法／国際取引法

研究テーマ EUの法的構造、性質、地域統合の法的側面

研究業績 共編著「国際ビジネスと法」(日評、2009年)、共編著「EU法基本判例集」(日評、2007年)、同「政府規制と経済法」(日評、2006年)

すあみ たかお
須網 隆夫

suamilaw@waseda.jp



教授

法学部担当科目 導入教育科目(演習)／2年法学演習

研究テーマ 刑事帰属論

研究業績 「規範論から見たドイツ刑事帰属論の二つの潮流(上)(中)(下)」比較法学37巻2号～38巻2号、「帰属を阻害する犯罪」の体系と解釈(1)(2)「愛知学院大学論叢法学研究48巻1号、50巻1号など

すぎもと かずとし
杉本 一敏



教授

法学部担当科目 英語／言語学

研究テーマ コンピュータ支援語学学習・第二言語習得論

研究業績 Stockwell, G. (2022). *Mobile Assisted Language Learning: Concepts, Contexts & Challenges*. Cambridge: Cambridge University Press. Stockwell, G., & Reinders, H. (2019). Thechnology, motivation and autonomy, and teacher psychology in language learning. Exploring the myths and possibilities. *Annual Review of Applied Linguistics*, 29(1), 40-51.

ストックウェル グレン

gstock@waseda.jp www.f.waseda.jp/gstock/



教授

法学部担当科目 ドイツ語／教養演習

研究テーマ 近代ドイツ思想

研究業績 「生産力の円環—有機体論としてのドイツ栄養生理学」(『近代科学と芸術創造』行路社、2015)、「統計学と社会改革—エルンスト・エンゲルの『人間の価値』論」(『社会思想史研究』35号、2011)「労働科学者としてのエミール・クレペリン—「疲労との闘争」に見るドイツ産業社会の一断面」(『表象』5号、2011)など

たかおか ゆうすけ
高岡 佑介



教授

法学部担当科目 英語／教養演習

研究テーマ 近現代日本史

研究業績 *Lost and Found: Recovering Regional Identity in Imperial Japan* (Harvard UP, 2014); “Tongues-Tied: The Making of a National Language and the Discovery of Dialects in Meiji Japan,” *The American Historical Review* (2010)

しもだ ひらく
下田 啓



教授

法学部担当科目 民法Ⅱ／主専攻法学演習(民法)／法曹の仕事を知る

研究テーマ 金融担保法、民事実体法の倒産手続における変容

研究業績 「フランスにおける将来債権譲渡と譲渡人の倒産手続との関係」(比較法学43巻2号)、「将来債権譲渡の対抗要件の構造に関する試論」(早稲田法学89巻3号)、「債権担保法制の立法に向けた検討課題」(NBL1198号)

しらい だい
白石 大



教授

法学部担当科目 導入演習／民事訴訟法Ⅰ

研究テーマ 民事訴訟の心理学的考察、司法統計の歴史的考察

研究業績 民事裁判心理学序説(信山社、1998年)、民事訴訟政策と心理学(慈学社、2010年)、統計から明治期の民事裁判(信山社、2005年)、統計からみた大正・昭和戦前期の民事裁判(慈学社、2011年)

すがわら いくお
菅原 郁夫



教授

法学部担当科目 英語／英文学

研究テーマ 19世紀英文学

研究業績 *The Shelleys and the Brownings: Textual Re-Imaginations and the Question of Influence* (Liverpool University Press, 2022), “What was all this except the lesson of life?”: Browning’s Fifine at the Fair and Shelley’, *Keats-Shelley Review* 30.1 (2016) 63-69.

すずき りえこ
鈴木 理恵子

rsuzuki@waseda.jp



講師(任期付)

法学部担当科目 導入演習／外国法特論(ドイツ法)／外国書講読(ドイツ刑法研究・北欧諸国の社会と法)

研究テーマ 刑法(量刑論、北欧刑法)

研究業績 「スウェーデン量刑法の生成と構造(1)～(4・完)」早稲田大学法学研究集171～174号(2019-2020)、「刑罰論の概念的・方法論的考察(1)(2・完)」早稲田法学会誌71巻1号、同2号(2020-2021)、「積極的一般予防の経験的基礎と規範的限界」早稲田大学比較法研究所オンライン・ジャーナル・シリーズ2020-2号(2021)など

そごう はやと
十河 隼人



教授

法学部担当科目 主専攻法学演習(民事訴訟法)

研究テーマ 民事証拠法、非訟事件手続法、集団訴訟制度

研究業績 「自由証明の研究」(有斐閣・2008年)、「ロースクール民事訴訟法」(第5版) (共著、有斐閣・2019年)、「グローバル化と社会国家原則」(共編著、信山社・2015年)、「家事事件手続法」(第3版) (共著、有斐閣・2016年)、「裁判官の私知」の利用禁止について(高橋宏志先生古稀祝賀「民事訴訟法の理論」[有斐閣・2018年]所収)、「証拠調べ後の裁判官交代と直接主義の原則」(春日偉知郎先生古稀祝賀「現代民事手続法の課題」(信山社・2019年)所収)など

たかだ まさひろ
高田 昌宏

	教授	
	法学部担当科目 知的財産権法	研究テーマ 知的財産権関係訴訟の理論と実務
	研究業績 著書「標準特許法（第7版）」（有斐閣、2020年）、著書「標準著作権法（第4版）」（有斐閣、2019年）、著書「知的財産に携わる人のための標準民事手続法」（発明推進協会、2012年）、共編著「ケースブック知的財産法（第3版）」（弘文堂、2012年）、論文「特許有効性判断における司法と行政の役割分担」（2017年）、論文「プロダクト・バイ・プロセス・クレームの今後の展望」（2016年）、論文「特許侵害訴訟に係る要件事実」（2016年）、論文「特許法102条2項の再定義」（2015年）、論文「標準化必須特許権侵害による損害賠償請求と権利の濫用」（2013年）	
saiban@waseda.jp		rclip.jp

	教授	
	法学部担当科目 英語／言語学	研究テーマ 言語人類学
	研究業績 "Pluri-modal poetic performance of banter: The Angama ritual on Ishigaki Island, Japan" in <i>Humour in Asian Cultures</i> (Routledge 2022); "Bonded but un-bonded: An ethnographic account of discordance in social relations" in <i>Bonding Through Context</i> (John Benjamins 2020); 『相互行為におけるディスコーダンスー言語人類学からみた不一致・不調和・葛藤』（編）（ひつじ書房2018）	
mtakekuro@waseda.jp		

	教授	
	法学部担当科目 民法（家族法）	研究テーマ 離婚と子の監護、児童虐待とDV、子の奪取に関するハーグ条約
	研究業績 『結婚の法律学（第2版）』（2006年）、『夫婦の法律相談（第2版）』（2010年）、『民法7 親族・相続（第6版）』（共著、2020年）、『子どもと法』（2012年）、『ライフステージと法（8版）』（共編著、2020年）、『同性パートナーシップ制度』（共著、2016年）	
masat@waseda.jp		homepage2.nifty.com/tanamura/index.htm

	教授	
	法学部担当科目 国際私法、国際取引法、主専攻法学演習（国際私法）、2年法学演習（国際私法）、導入演習	研究テーマ 国際不法行為法、英米国際私法の歴史分析
	研究業績 『国際不法行為法の研究』（成文堂、2017年）、『知的財産分野における実質法の統一と国際私法の統一』早稲田法学97巻3号（2022年）	
たねむら ゆうすけ		種村 佑介

	教授	
	法学部担当科目 刑法／経済刑法	研究テーマ 財産犯罪論
	研究業績 『財産犯における客体と損害概念』刑法雑誌57巻2号（2018年）、『権利行使と財産犯』『野村稔先生古稀祝賀論文集』（成文堂、2015年）、『詐欺罪における財産的損害』『曾根威彦先生・田口守一先生古稀祝賀論文集（下巻）』（成文堂、2014年）、『財産犯の保護法益』神奈川法学43巻1号（2010年）	
たやま さとみ		田山 聡美

	教授	
	法学部担当科目 独占禁止法	研究テーマ 経済法の研究
	研究業績 『独占禁止法とフェアコンミ』（共編著、2017年）、『経済法の現代的課題』（共編著、2017年）、『条文から学ぶ独占禁止法（第2版）』（共著、2019年）、『演習ノート経済法（第2版）』（共編、2014年）、『独占禁止法の国際的執行』（編著、2012年）、『政府規制と経済法』（共編著、2006年）、『経済法』（共著、有斐閣、1999年）、『市場と規制改革の基礎理論に向けての一試論』法律時報2003年1月号	
つちだ かずひろ		土田 和博
wj7tuti4@waseda.jp		

	教授	
	法学部担当科目 Introduction to Labor and Employment Law in Japan、労使関係法	研究テーマ 労働者代表制度、労使関係法上の「労働者」及び「使用者」概念
	研究業績 『労働法 第3版』（共著、有斐閣、2019年）、『従業員代表制と労使協定』日本労働法学会編『講座労働法の再生 第1巻労働法の基礎理論』（日本評論社、2017年）159頁、『アメリカ全国労働関係法における被用者概念—独立契約者との区別に焦点をあてて』荒木尚志ほか編『労働法学の展望—菅野和夫先生古稀記念論集』（有斐閣、2013年）573頁	
hisashi_to@waseda.jp		

	准教授	
	法学部担当科目 導入演習／主専攻法学演習／民事訴訟法Ⅰ／倒産法Ⅱ	研究テーマ 事業再建と倒産法
	研究業績 『再建型倒産処理手続におけるスポンサー保護条項の処遇（1）～（4・完）』早稲田大学大学院法研論集149～151号、153号（2014～2015）、『事業譲渡による再建における清算価値保障原則の意義（1）（2・完）』首都大学東京法学会雑誌59巻1号、60巻1号（2018～2019）、『代替許可における株主の地位』加藤哲夫先生古稀祝賀『民事手続法の発展』（成文堂、2020）所収など	
たなはし ようへい		棚橋 洋平

	教授	
	法学部担当科目 仏語／教養演習 映像論	研究テーマ フランス・モダニズム研究、イメージ論
	研究業績 著書『詩人とボクサー』、『ロジェ・ジルベール＝ルコント』、論文『細部というアポリア』、『弧島のエキゾティシズムから群島の「驚異」へ』、翻訳 ミシェル・レリス『オランピアの頸のリボン』『ゲームの規則Ⅳ 囁き』、ジャン・エシュノーズ『ピアノ・ソロ』	
masachika_1622@waseda.jp		www.f.waseda.jp/tani/myweb/

	教授	
	法学部担当科目 行政法・地方自治法	研究テーマ 政治・行政システムの改革と公法・行政法理論
	研究業績 『地方分権改革の法学的分析』、『法務に強くなる！レベルアップ地方自治法解説』、『住民投票』（共著）、『行政手続法』（共著）、『経済行政と公務員法制』首藤・岡田編『経済行政法の理論』所収、『自治体ガバナンス改革下における自治体監査制度改革の検討』北村他編『自治体行政法務の理論と課題別実践』所収、『国家的公益と地域的公益の対立と調整』法律時報91巻11号、『地方公共団体の再編』公法研究82号	
たねむら たつひこ		田村 達久

	准教授	
	法学部担当科目 中国語	研究テーマ 中国近世文学、通俗文芸研究
	研究業績 『白馬モチーフの変奏—二種の白馬宝巻をめぐる—』中国文学研究45期（2019年）、『ハーバード大学イェンチン図書館所蔵の宝巻について』中国古典小説研究22号（2019年）、『裁きと神々の接点—『賢良宝巻』の変容にみる宝巻の変遷—』中国文学研究44期（2018年）、『宝巻の流布と明清女性文化』（共著『中国古籍流通学の確立—流通する古籍・流通する文化—』雄山閣、2007年）、単編著『影印・翻字・注釈 搶生死牌宝巻』（中国古籍研究所、2005年）など	
つじ りん		辻 リン

	教授	
	法学部担当科目 中国語／教養演習（中国語圏）	研究テーマ 中国古典文学研究 唐代詩文研究
	研究業績 『中唐初期における蘇州文壇の形成についての一考察』松浦友久博士追悼記念中国古典文学論集、研文出版（2006年）、『白居易・劉禹錫における章応物の「雅興」の受容について』中国文学研究33（2007年）、『杜陵野客と腐儒』生誕千三百年記念杜甫研究論集、研文出版（2013年）、『白居易の青年期における選良意識について』中国文学研究43（2017年）、『徳宗朝・貞元年間における重陽賜宴と章応物について』人文論集60（2022）	
つちや あきお		土谷 彰男



教授

法学部担当科目
民事訴訟法／
国際民事訴訟法

研究テーマ
民事訴訟法の諸原則、
民事証拠収集法制度の改正問題

研究業績
『読解 民事訴訟法』(有斐閣)、『民事訴訟法理論と「時間」的価値』(成文堂)、『民事訴訟法Visual Materials』(共著、有斐閣)、『「参加の利益」論の現在』法曹時報71巻9号、『我が国の知らない「訴訟担当」の当事者適格に関する覚書』(「加藤哲夫先生古稀祝賀」成文堂)

て し が はら かずひこ
勅使川原 和彦

www.facebook.com/WasedaUniv.SchoolOfLaw.TeshiSeminar



教授

法学部担当科目
会社法

研究テーマ
会社法

研究業績
2005年会社法と会社の機関(ジュリスト1315号)、鳥山ほか『会社法』新訂版(学陽書房)、コーポレート・ガバナンスとフランス会社法(上・下)(月刊監査役459・460号)、フランス会社法とコーポレート・ガバナンス論(比較会社法研究／成文堂)など

とりやま きょういち
鳥山 恭一

toriyama@waseda.jp



准教授

法学部担当科目
仏語／教養演習

研究テーマ
フランス語圏文学、アフリカ・カリブ文化研究

研究業績
『魂の形式 コレット・マニー論』(カンパニー社)、『野蜜の言説 差別と排除の精神史』(春陽堂書店)、『エドゥアール・グリッサン〈全・世界〉のヴィジョン』(岩波書店)

なかむら たかゆき
中村 隆之



教授

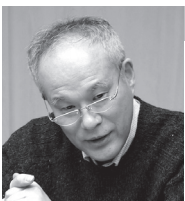
法学部担当科目
商法(海商法)／
商法(総則・商行為法)

研究テーマ
海法、国際商取引法の諸問題

研究業績
『基本講義 現代海商法(第4版)』(2022年)、『海商法(第2版)』(共著、2013年)、『船舶衝突法』(編著、2012年)、『1681年フランス海事王令試訳(1～3)』(早稲田法学81巻4号、82巻1号、2号)

ほ こ い たかし
箱井 崇史

htaka@waseda.jp



教授

法学部担当科目
比較憲法

研究テーマ
立憲主義の基礎、放送・通信法制

研究業績
『憲法の円環』(岩波書店)、『憲法の境界』(羽鳥書店)、『憲法の論理』(有斐閣)

は せ べ やすお
長谷部 恭男



教授

法学部担当科目
英語 Bridge／ Gate／
Theme／ Advanced／

研究テーマ
場の言語学・心理言語学的手法
の英語教育への援用・言語理解
における創発的推論

研究業績
Yasunari Harada, Sachiko Shudo & Makiko Takekuro (eds.), *Papers on and around the Linguistics of BA 2017*, the Institute for Digital Enhancement of Cognitive Development of Waseda University, March 31st, 2017、原田康也・阪井和男・栗山健、『ポスト・エヴァンゲリオン』の復活：知的能力発達の可視化・論理的推論能力・価値の創発)、言語学習と教育言語学：2016年度版、pp. 37-46、早稲田大学情報教育研究所、2017年3月31日、横川博一・定藤規弘・吉田晴世(編著)、『外国語運用能力はいかに熟達化するか：言語情報処理の自動化プロセスを探る』、第11章を担当、松柏社、2014年3月25日

はら だ やすなり
原田 康也

harada@waseda.jp www.f.waseda.jp/harada/index-j.html



教授

法学部担当科目
導入演習

研究テーマ
国際私法・国際民事手続法の体系化

研究業績
「自分で考えるちょっと違った法学入門(第4版)」(有斐閣、2019年)、『国際私法入門(第8版)』(有斐閣、2018年)『ポイント国際私法総論・各論(第2版)』(有斐閣、2007年、2013年)、『ロースクール国際私法・国際民事手続法(第3版)』(有斐閣、2012年)、『涉外戸籍法リステイトメント』(日本加除出版、2007年)、『ハーグ国際裁判管轄条約』(商事法務、2009年)、『国際契約実務のための予防法学』(商事法務、2012年)

どう が うち まさと
道垣内 正人

dogauchi@waseda.jp www.f.waseda.jp/dogauchi/



教授

法学部担当科目
憲法

研究テーマ
経済的自由権、情報法

研究業績
『財産権の領分』(日本評論社、2007年)、『憲法学における「公共財」』『岩波講座憲法2』(2007年)、『公務の民間化と公務員の労働基本権』論説ジュリスト1号(2012年)、『憲法からみた「国家戦略特区」』世界2014年8月号、『「選挙の公正」と憲法学』法律時報88巻5号(2016年)、『映画と憲法のあいだ』(法学セミナー 2021年11月号)

なかじま とおる
中島 徹

torun@waseda.jp



教授

法学部担当科目
外国法(英米法)総論／主
専攻演習(英米法・EU法)

研究テーマ
イギリス公法、EU法、
地域統合法

研究業績
『イギリス憲法とEC法一国会主権の原則の凋落一』(東京大学出版会、1993年)、『欧州憲法条約一解説及び翻訳一』(衆議院憲法調査会事務局、2004年)、編著『EU研究の新天地一前例なき政体への接近』(ミネルヴァ書房、2005年)、Tamio Nakamura(ed.), *East Asian Regionalism from a Legal Perspective* (Routledge, 2009)、中村民雄・須網隆夫編『EU法基本判例集(第3版)』(日本評論社、2019年)、中村民雄『EUとは何か(第3版)』(信山社、2019年)

なかむら たみ お
中村 民雄

tamio@waseda.jp



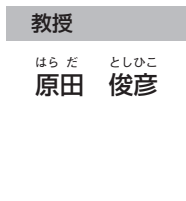
教授

法学部担当科目
導入演習／
2年法学演習(民法)

研究テーマ
判断能力が不十分な成年者の法的保護

研究業績
『法定後見をめぐる比較法的研究』『現代家族法講座第4巻後見・扶養』(日本評論社、2020年)、『精神障害者のソーシャルインクルージョン』『持続可能な世界への法：Law and sustainabilityの推進』(成文堂、2020年)、『成年被後見人の面会交流支援について一近時の裁判例を題材として一』早法97巻1号(2021年)、『イギリスにおける事実婚・同性婚に対する法的対応』税研220号(2021年)など

はしもと ゆき
橋本 有生



教授

法学部担当科目
ローマ法

研究テーマ
ヨーロッパ中世・近代におけるローマ共和政

研究業績
『ローマ共和政初期立法史論』(2002年、敬文堂)、『アメリカ合衆国憲法と古典古代』早稲田法学92巻3号(2017年)、『進歩と循環一アメリカ独立革命の歴史認識一』早稲田法学93巻3号(2018年)、『ただ一つの出来事一トマス・ジェファソンの歴史認識一』早稲田法学94巻4号(2019年)

はら だ としひこ
原田 俊彦



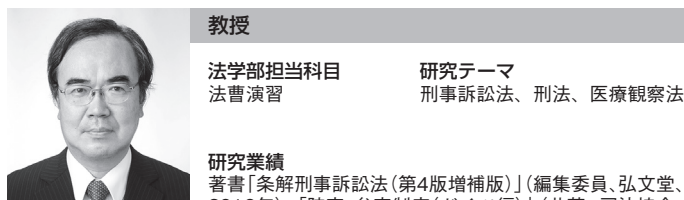
教授

法学部担当科目
国際法

研究テーマ
国家の国際違法行為責任

研究業績
『国際違法行為責任の研究』(2015年)

ばんざい ひろゆき
萬歳 寛之

ひえだ まさひろ
稗田 雅洋

教授

法学部担当科目 研究テーマ
法曹演習 刑事訴訟法、刑法、医療観察法

研究業績

著書「条解刑事訴訟法(第4版増補版)」(編集委員、弘文堂、2016年)、「陪審・参審制度(ドイツ編)」(共著、司法協会、2000年)、「裁判員裁判と刑法理論—裁判官の視点から」刑法雑誌55巻2号(2016年)

m-hieda@waseda.jp

ひらい みつき
平井 光貴

講師(任期付)

法学部担当科目 研究テーマ
導入演習/先端科学技術と法倫理/先端科学技術と法演習 法哲学

研究業績

「法とは何か」とは何か:メタ法概念論と概念工学(立憲法学(104)、2021年)、法理論に関する当為および「法理論の道徳的正当化要求テーゼ」は可能か(立憲法学(101)、2020年)、Legal Positivism and the Point of Theoretical Value-Neutrality (Archiv für Rechts- und Sozialphilosophie Beiheft 161、2020年)

ふるや しゅういち
古谷 修一

教授

法学部担当科目 研究テーマ
主専攻法学演習(国際法) 国際刑事裁判

研究業績

「国際刑事裁判権の意義と問題—国際法秩序における革新性と連続性」、村瀬信也・洪恵子編『国際刑事裁判所』(2014年)所収:「稼働を始めた国際刑事裁判所の課題—外からの抵抗と内なる挑戦」『法律時報』79巻4号(2007年)

sfuruya@waseda.jp

ほしい まきこ
星井 牧子

教授

法学部担当科目 研究テーマ
独語/教養演習/言語学 外国語教育学、応用言語学、第二言語習得、ドイツ語教育研究

研究業績

講座ドイツ言語学 第3巻『ドイツ語の社会語用論』(分担執筆、2014年)、Von den Kommunikationsstrategien zum produktions- und verständnissichernden Handeln. *Deutsch als Fremdsprache*, 4/2017, 195-201. (共著、2017年)、Interaktionale Kompetenz als Lernziel für Lernende und Lehrende des Deutschen als Fremdsprache. *Zeitschrift für Interaktionsforschung in DaFZ*, 1(1), 13-34 (共著、2021年)

mhoshii@waseda.jp

まつばら よしひろ
松原 芳博

教授

法学部担当科目 研究テーマ
刑事法 刑法解釈学、刑法における行為と結果

研究業績

著書『刑法総論(第3版)』(2022年、日本評論社)、『刑法各論(第2版)』(2021年、日本評論社)、『犯罪概念と可罰性』(1997年、成文堂)、『刑法概説(2018年、成文堂)』、『刑法の判例・総論』(2011年、成文堂)、『刑法の判例・各論』(2011年、成文堂)、『行為論と刑法理論』(2021年、成文堂)

matubara@waseda.jp



マニغو ヴァンサン

准教授

法学部担当科目 研究テーマ
仏語/教養演習 日本近現代美術、前衛芸術

研究業績

著書: Mythologies du superhéros : histoire, physiologie, géographie, intermédialités (共著、2014年)、論文: 『Surréalisme et bande dessinée : un rendez-vous manqué?』(『人文論集』59号、2021年)、『Le différend : la question des responsabilités de guerre et de la réorientation chez Yoshimoto Takaaki entre 1955 et 1958』(『Ebisu』54号、共著、2017年)、『日本のシュルレアリスム—固有かつ総合的な芸術運動の試み—』(ART TRACE PRESS) 4号、2016年)

ひとみ たけし
人見 剛

教授

法学部担当科目 研究テーマ
主専攻法学演習(行政法) 行政法、地方自治法

研究業績

『近代法治国家の行政法学』(成文堂)、『分権改革と自治体法理』(敬文堂)、『リーガルクエスト・行政法(第3版)』(共著、有斐閣)、『行政法事例演習問題教材(第2版)』(共著、有斐閣)、『ホーンブック・地方自治法(第3版)』(共編著、北樹出版)、『世界の公私協働』(共編著、日本評論社)、『公害防止条例の研究』(共編著、敬文堂)、『新基本法コンメンタール地方自治法』(共編著、日本評論社)、『協働型の制度づくりと政策形成』(共編著、ぎょうせい)

ふくしま ひろなお
福島 洋尚

教授

法学部担当科目 研究テーマ
応用会社法Ⅰ/応用会社法Ⅱ/法学演習(商法) 商法、会社法

研究業績

『キーワードで読む会社法』(共著、有斐閣)、『Law Practice 商法』(共著、商事法務)、『ストウディア会社法』(共著、有斐閣)

hironao@waseda.jp

ぶん げんしゅん
文 元春

教授

法学部担当科目 研究テーマ
導入演習/2年法学演習(中国法)/外国法総論(中国法)/主専攻法学演習(現代中国法) 中国法、民事責任論

研究業績

『中国不法行為法の研究』(編著、成文堂、2019年)、『入門中国法(第2版)』(共著、弘文堂、2019年)、『中国の法と社会と歴史』(共編著、成文堂、2017年)、『中国における共同不法行為についての基礎的研究』早稲田法学会誌65巻1号(2014年)など

まつざわ しん
松澤 伸

教授

法学部担当科目 研究テーマ
刑法総論/刑法各論/法学演習/外国語講読 刑法

研究業績

著書『機能主義刑法学の理論』(信山社)著書『デンマーク司法運営法』(成文堂)編著『Methodology of Criminal Law Theory』(Nomos/Hart)

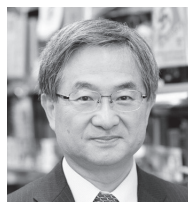
まつむら かずのり
松村 和徳

教授

法学部担当科目 研究テーマ
民事執行・保全法/民事訴訟法、民事執行法、主専攻法学演習(民事) 民事保全法、倒産処理法訴訟法

研究業績

『民事執行救済制度論』(成文堂、単著)、『倒産法概論』(法学書院、単著)、『民事執行・保全法概論』(成文堂、単著)、『オーストリア倒産法』(岡山大学出版会、編著)、『民事模擬裁判ティーチング・マニュアル(初級編)』(慈学社、編著)、『民事訴訟法演習教材』(成文堂、編著)など

みずしま あさほ
水島 朝穂

教授

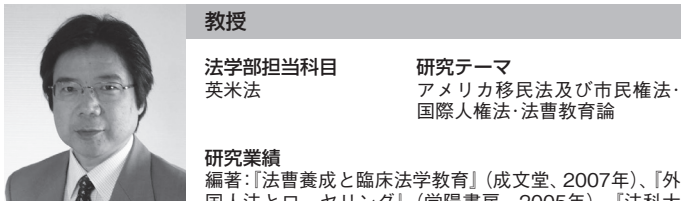
法学部担当科目 研究テーマ
憲法/法政策論 憲法の平和主義、平和法政策

研究業績

『平和の憲法政策論』(日本評論社)、『現代軍事法制の研究』(同)、『ライブ講義徹底分析 集団的自衛権』(岩波書店)、『立憲的ダイナミズム』(同)、『検証防空法』(法律文化社)、『18歳からはじめる憲法』(法律文化社)、『東日本大震災と憲法』(早大出版部)、『戦争とたたかう』(岩波現代文庫)、『はじめての憲法教室』(集英社)ほか

mizushim@waseda.jp

http://www.asaho.com/



教授

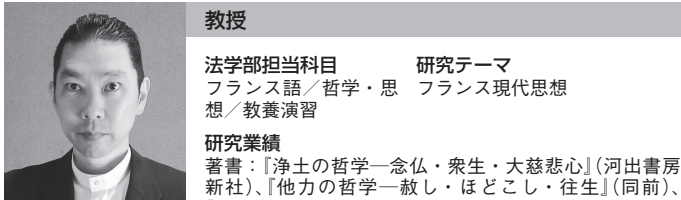
法学部担当科目
英米法

研究テーマ
アメリカ移民法及び市民権法・
国際人権法・法曹教育論

研究業績
編著：『法曹養成と臨床法学教育』（成文堂、2007年）、『外国人法とローヤリング』（学陽書房、2005年）、『法科大学院と臨床法学教育』（成文堂、2003年）、編『アメリカ最高裁とレーンキスト・コート』（成文堂、2009年）

みやがわ しげお
宮川 成雄

smiyagaw@waseda.jp



教授

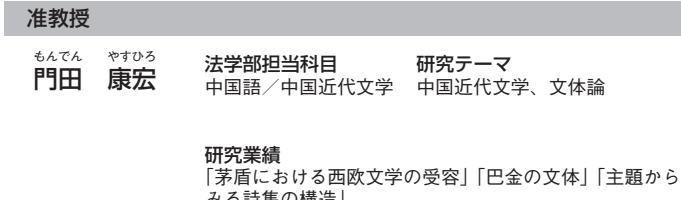
法学部担当科目
フランス語／哲学・思想／教養演習

研究テーマ
フランス現代思想

研究業績
著書：『浄土の哲学—念仏・衆生・大慈悲心』（河出書房新社）、『他力の哲学—赦し・ほどこし・往生』（同前）、『ジャック・デリダと精神分析—耳・秘密・灰そして主権』（岩波書店）、『法』（岩波書店）、『存在と灰—ツェラン、そしてデリダ以後』（人文書院）、『脱構築』（岩波書店）、共著：『変成する思考』（岩波書店）など。

もりなか たかひろ
守中 高明

morinaka@waseda.jp



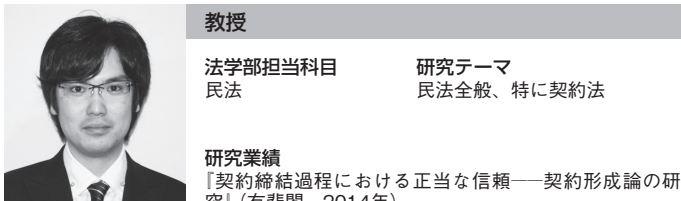
准教授

法学部担当科目
中国語／中国近代文学

研究テーマ
中国近代文学、文体論

研究業績
「茅盾における西欧文学の受容」「巴金の文体」「主題からみる詩集の構造」

もんでん けんろ
門田 康宏



教授

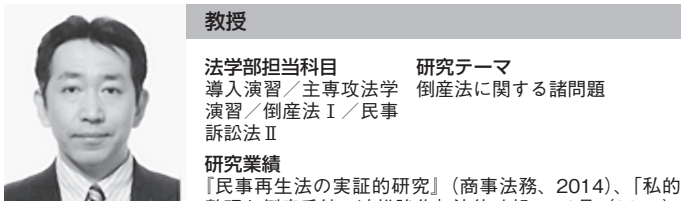
法学部担当科目
民法

研究テーマ
民法全般、特に契約法

研究業績
『契約締結過程における正当な信頼—契約形成論の研究』（有斐閣、2014年）

やましろう かずま
山城 一真

yamanome@waseda.jp



教授

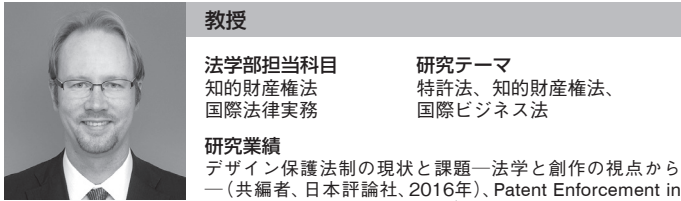
法学部担当科目
導入演習／専攻法学演習／倒産法Ⅰ／民事訴訟法Ⅱ

研究テーマ
倒産法に関する諸問題

研究業績
『民事再生法の実証的研究』（商事法務、2014）、『私的整理と倒産手続の連携強化』法律時報1118号（2017）、『倒産手続における所有権留保の処遇』法学教室450号（2018）、『私的整理と法的倒産手続との新たな関係』（『民事手続法の発展』（成文堂、2020）所収

やまもと けん
山本 研

yken@waseda.jp



教授

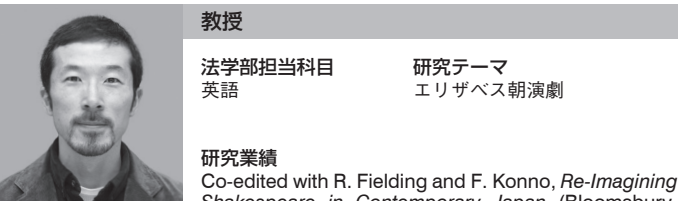
法学部担当科目
知的財産権法
国際法律実務

研究テーマ
特許法、知的財産権法、
国際ビジネス法

研究業績
デザイン保護法制の現状と課題—法学と創作の視点から—（共編者、日本評論社、2016年）、Patent Enforcement in the US, Germany, and Japan（共著者、Oxford University Press、2015年）、Die gerichtliche Durchsetzung von Patent und Markenrechten in Deutschland, Japan, und den USA（Nomos出版（ドイツ）、2010年）

ラーデマッハ クリストフ

rademacher@waseda.jp <http://www.rclip.jp/organization.html>



教授

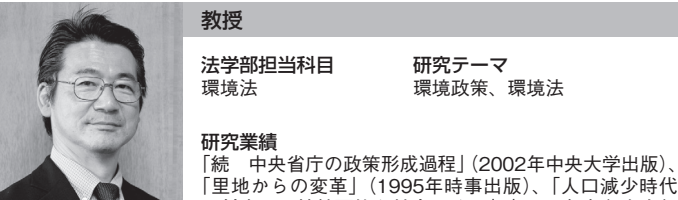
法学部担当科目
英語

研究テーマ
エリザベス朝演劇

研究業績
Co-edited with R. Fielding and F. Konno, *Re-Imagining Shakespeare in Contemporary Japan* (Bloomsbury, 2021); co-authored with F. Konno, "The Shakespeare Company Japan and Regional Self-Fashioning," in *Bard Bites* (Edward Elgar, 2021).

もとやま てつひと
本山 哲人

tetsuno@waseda.jp



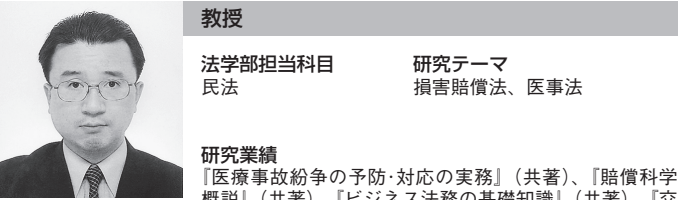
教授

法学部担当科目
環境法

研究テーマ
環境政策、環境法

研究業績
「統一中央省庁の政策形成過程」（2002年中央大学出版）、「里地からの変革」（1995年時事出版）、「人口減少時代に対応した持続可能な社会づくり」（2011年久留米大紀要）、「Citizen's participation in the process of policy-making and its implementation」（2003年 East West Center）

もりもと ひでか
森本 英香



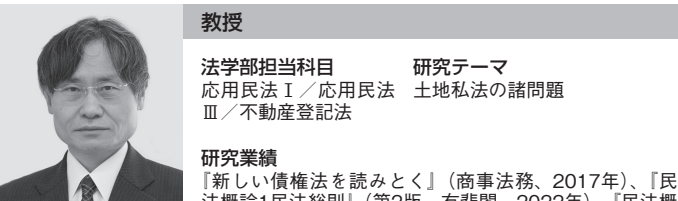
教授

法学部担当科目
民法

研究テーマ
損害賠償法、医事法

研究業績
『医療事故紛争の予防・対応の実務』（共著）、『賠償科学概説』（共著）、『ビジネス法務の基礎知識』（共著）、『交通賠償論の新次元』（共著）、『フランスにおける医療契約と医療被害救済制度』（年報医事法21号）、『医療水準と法益』（賠償科学34号）

やまぐち なりあき
山口 斉昭



教授

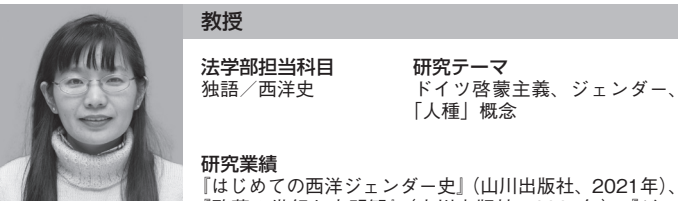
法学部担当科目
応用民法Ⅰ／応用民法Ⅲ／不動産登記法

研究テーマ
土地私法の諸問題

研究業績
『新しい債権法を読みとく』（商事法務、2017年）、『民法概論1民法総則』（第2版、有斐閣、2022年）、『民法概論4債権各論』（有斐閣、2020年）、『民法—総則・物権』（第8版、有斐閣アルマ、2022年）

やまのめ あきお
山野目 章夫

yamanome@waseda.jp



教授

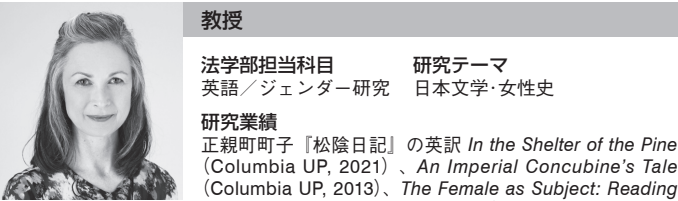
法学部担当科目
独語／西洋史

研究テーマ
ドイツ啓蒙主義、ジェンダー、
「人種」概念

研究業績
『はじめての西洋ジェンダー史』（山川出版社、2021年）、『啓蒙の世紀と文明観』（山川出版社、2004年）、『ジェンダー研究／教育の深化のために』（共編著、彩流社、2016年）、『世界史における男性史的アプローチ』（『世界史のなかの女性たち』勉誠出版、2015年）

ゆげ なおこ
弓削 尚子

yuge@waseda.jp



教授

法学部担当科目
英語／ジェンダー研究

研究テーマ
日本文学・女性史

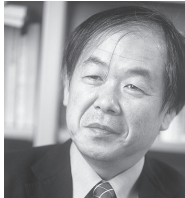
研究業績
正親町町子『松陰日記』の英訳 *In the Shelter of the Pine* (Columbia UP, 2021)、*An Imperial Concubine's Tale* (Columbia UP, 2013)、*The Female as Subject: Reading and Writing in Early Modern Japan* (共編著、Michigan UP, 2010)、増田小夜著『芸者』（平凡社、1957）の英訳 *Autobiography of a Geisha* (Columbia UP, 2003)、*Yosano Akiko and The Tale of Genji* (Michigan UP, 2000)

ローリー ゲイ

rowley@waseda.jp www.gayerowley.com

	教授	
	法学部担当科目 法学演習(商法)、資本市場法Ⅰ・Ⅱ	研究テーマ 証券発行市場規制、公共債の市場法的研究
	研究業績 『証券発行市場と相場操縦規制(1)-(9・完)』法研論集91号-96号・98号、102・103号(1999-2002年)、『アメリカにおける証券規制の改革提案』企業と法創造19号(2009)、『監査人に対する虚偽表示・不当な圧力行使の禁止』ディスクロージャー&IR・13号(2020)	

わかばやし やすのぶ
若林 泰伸

	教授	
	法学部担当科目 法批判への招待	研究テーマ 法社会学理論、紛争処理論、ADR、医療と法
	研究業績 『民事紛争交渉過程論』(1991)、『民事紛争処理論』(1994)、『法社会学の解体と再生：ポストモダンを超えて』(1996)、『医療紛争』(2001)、『リーガルカウンセリングの技法』(2006、共著)、『医療メディエーション』(2012、共著)	

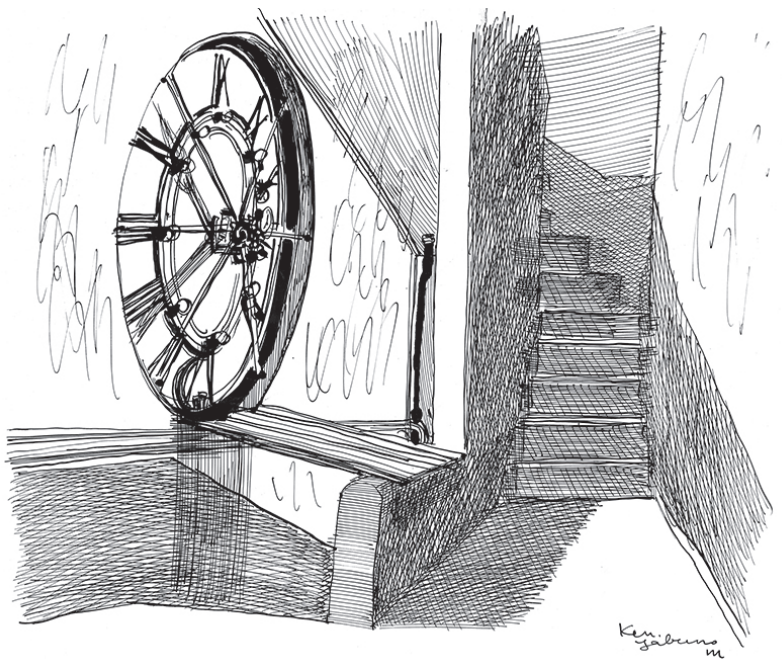
わだ よしたか
和田 仁孝

	教授	
	法学部担当科目 租税法	研究テーマ 法人税
	研究業績 『企業取引と租税回避』(中央経済社、2002)、『企業組織再編成と課税』(弘文堂、2006)、『ベーシック税法(第7版)』(有斐閣、2013)、『自己株式に関する課税問題—最近の事例を中心に』『租税法と市場』(有斐閣、2014)、『組織再編成と租税回避』『租税回避研究の展開と課題』(ミネルヴァ書房、2015)、『法人税法132条の2にいう不当性要件とヤフー最高裁判決』商事法務2112-2113号(2016)、『スタンダード法人税法〔第2版〕』(弘文堂、2019)	

わたなべ てつや
渡辺 徹也

	教授	
	法学部担当科目 日本法史	研究テーマ 近世日本法制史
	研究業績 『金田平一郎と九州帝国大学』法政研究83巻3号、「近世前期の評定所裁判—『公法纂例』にみる判断のあり方—」(『幕藩制国家の政治構造』(2016年、吉川弘文館)所収)、『宮崎道三郎と伴信友の「カササギ」—法制史学黎明期へのアプローチ—』神戸学院法学42巻3・4号(2013年)、『『琉球科律』—近世琉球の成文法典—』同40巻1号(2010年)	

わに かや
和仁 かや





「早稲田大学法学部報」Themis 第41号

発行日：2022年4月1日

発行所：早稲田大学法学部

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1

TEL：03(3232)4534

URL：<https://www.waseda.jp/folaw/law/>

カット・画：藪野 健 早稲田大学名誉フェロー

発行者：法学部長

箱井 崇史

編集者：法学部学生担当教務副主任

山城 一真

本冊子の全ての内容、テキストおよび画像等は無断転載・無断使用禁止です。